

ちよつとそんまげ

わがまち散歩

道すがら、心通わす人がいる
古里の温もりに包まれながら
あちらこちら、わがまち散歩

益城町小池は、御船町へとつながる国道443号から南北に広がる地域で、行政区は本土山、土山、小池秋永、下原です。今回は国道から北に入った小池秋永地区を巡り、温かい出会いに触れました。



朝早くからビニールハウスで花栽培に汗を流す梶本さん夫婦



鮮やかな色のガーベラが栽培されています



ガーベラの花が栽培されている梶本さんのビニールハウス(今年の春ごろの様子・梶本さん提供)

仲良し夫婦が育てる 美しい花々

日が昇った頃のまだ涼しい早朝、高台にあるビニールハウスで汗を流していたのは、梶本正一さんと理香子さん夫婦です。ハウスの中には色鮮やかなガーベラの花が栽培されています。町内で花栽培をする農家は少なく、梶本さんたちは一年を通じて数種類の花々を育て出荷しています。

「花栽培は果物や野菜栽培と同じく

自然相手だから、苦勞もあります。けれど、私たちが育てた花を飾って、心が癒やされる人たちがいらつしやると思えば、育てがいがあります」と爽やかな笑顔を見せる正一さんは、夏場は朝の5時過ぎには畑に出るといふ、がまだしもんです。

朝早くから畑で汗を流した後でいただく、妻の理香子さんがこしらえる朝食が、正一さんの元気な体を支えているようです。理香子さんは熊本市内のサラリーマンの家庭に生まれ育ち

ました。「25歳の時に嫁いできて、それまで農業なんてやったことがなくて」と振り返る理香子さんですが、正一さんとは交流会で出会い、猛アタックを受けて結ばれたそうです。

仲の良い夫婦の楽しみはビーチバレー。「畑で流す汗とはまた違って爽快です。その後の晩酌がおいしくて」と笑う正一さん。仕事も趣味も連携プレーが大切。「あ、うん」の呼吸で二人は元気にすごしているようです。